

令和4年度社会福祉法人こどもの国協会事業計画

1. 運営の理念

こどもの国は、次代を担う児童を明るく健全に育てるための児童厚生施設として、以下の理念のもとに運営する。

- (1) 美しい自然環境のもと、児童が遊びを通して自主性、創造性を育てるとともに、健康を増進し、情操を豊かにする。
- (2) 全国の児童厚生施設のセンターとしての指導的役割を果たす。

2. 運営の目標

こどもの国は、以下の目標のもとに運営する。

- (1) 児童の発達に合わせて、健全な遊びを十分に可能とし、個人や家族あるいは団体に利用できるよう配慮する。
- (2) 児童の健全育成という原点を踏まえながら、時代状況に応じた運営に努力する一方、興味本位や営利に傾かないよう配慮する。
- (3) 施設運営は独立採算を原則とし、入園料及び利用料を主な財源としつつ、財源面で運営上必要な工夫を図る。入園料及び利用料は現行水準を維持するよう努める。
- (4) 自然豊かな子ども達の遊び場としてさらに発展していくことが出来るよう、地域との連携を含めた運営面を中心とした検討を行う等、安定的な運営の確保や自然環境の保護等に努める。

3. 目標入園者数

令和4年度の目標入園者数（有料） ⇒ 「85万人」

(1) 近年の入園者実績

平成30年度 87万3千人、平成31(令和元)年度 85万4千人、

令和2年度 54万1千人。

(2) コロナ禍における令和2・3年度の状況

コロナ禍での通年開園となった令和2年度は、4月、5月を閉園しプール、スケートも中止せざるを得なかった影響で入園者数は大幅に減少。令和3年度も、集客の見込めるプールは中止とせざるを得なかったことに加え、2年ぶりに実施したスケートについても人数制限を設定しての実施となった。

令和3年度の入園者数は、2月末時点では68万2千人と令和2年度の年間入園者数の54万1千人をこの時点で上回ってはいるものの、コロナ禍前の入園者数を大きく下回ることが見込まれる(75万人程度)。

(3) 目標入園者数の考え方

令和3年度の年間入園者数は、コロナ禍前と比較して約10万人程度のマイナスとなる見込みであるが、昨年9月のシルバーウィーク辺りから、コロナ禍前と変わらないほど多くの入園者を迎える日が多くなってきている。下半期の10月から2月までの5か月間だけに限ると、過去5か年の中で最も多くの入園者数を記録している。

令和4年度の目標入園者数を設定するに当たっては、コロナ禍での運営を前提としつつも、令和3年度の下半期の状況や、2年間実施出来ていなかった一定の集客を見込めるプールの再開等により達成可能な目標と考える。

4. 来園者促進のための主な自主事業

「こどもの国協会の解散及び事業の承継に関する法律」第1条第3項に掲げる事業として、既存施設・設備を引き続き運営するほか、豊かな自然を活用した各種の催事・事業を進め、学校教育では得がたい学びの場、自然とのふれあいの場、遊びの場、親子の絆づくりの場として、多くの方々に利用いただけるよう来園者の促進に向けた、主な次の事業を行う。

なお、令和2年度から新型コロナウイルスの感染拡大防止を図る観点から、密室・密集・密接となる可能性の高い事業等については、中止または人数制限等により規模を縮小しているところであり、令和4年度においても感染状況等を踏まえながら同様の対応をすることとしている。

(1) 自然と親しむ四季折々の事業

「野草の天ぷら」、「ジャガイモ・サツマイモ・枝豆の収穫」などの自然体験イベントや園内に生息する「野鳥、セミ、バッタ、草花、木の実など」の自然と親しむ四季折々の事業を開催し、子どもたちの自然とのふれあいの機会を数多く提供する。

(2) 季節ごとの集客イベント

恒例の「春まつり」と「秋まつり」については、コロナ禍においての開催が予想されることから、規模を縮小して開催する。また、新たに「夏まつり」として、盆踊りや縁日をイメージしたイベントを行うことを計画している。

その他、「梅まつり」、「ツバキまつり」についても例年どおり開催することとし、できる限り来園者の満足度を高められるよう務める。

(3) その他の事業

① プール、スケート

夏季のプール事業は、感染対策を徹底した上で人数制限、利用券の前売りを導入するなどにより、3年ぶりの営業を目指す。冬季のスケート事業は、令和3年度に実施した人数制限、利用券の前売り方式で営業する。

② サンマを炭火で食べる会

人気のある恒例行事であるが、一昨年から2年間開催できていない。コロナ禍ではあっても、人数制限を行うなど、十分な感染対策を行いながら開催したいと計画してきたものではあるが、肝心のサンマの不漁により中止してきたものである。

今年度も実施に向けて計画しているが、サンマ漁や新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ判断する。

③ ノルディックウォーキング

平日にシニア層をはじめとする自然愛好家などを対象に園内の自然の中を歩く、ノルディックウォーキングを実施する。

④ 研修センター、キャンプ場

令和2年度から、密室・密集・密接のリスクが高い、研修センター、キャンプについては事業を中止している。研修センターについては引き続き中止するが、キャンプについてはコロナ禍の状況等を踏まえながら再開を検討する。

5. 雪印こどもの国牧場と連携した事業

恒例の雪印こどもの国牧場と連携した、桜の季節（3月末～4月初め）に行われる「桜と羊のフェスティバル」や5月の「牛乳まつり」、11月の「牧場まつり」を開催する。

6. 企業・関係団体の助成や協賛等による事業

（1）フォトコンテスト

朝日新聞社、朝日新聞出版、資生堂、東急電鉄、ベルマーク教育助成財団、雪印メグミルク、横浜エフエム放送、横浜高速鉄道各社の助成・後援を得て、「こどもの国の春を感じて」をテーマにフォトコンテストを開催する。

（2）吹奏楽コンテスト・ブラスフェスティバル

神奈川県、東京都の両吹奏楽連盟の協力により、応募のあった小中学校の吹奏楽部から抽選で参加校を選出し、10月に「こどもの国吹奏楽コンテスト」を開催。また、これまで年2回開催していた青空コンサートは、参加対象を高校生まで広げ、「ブラスフェスティバル」として、平成記念館を会場として年3回開催することとし、「平成記念館」の利用促進と「こどもの国」の認知度アップを図る。

（3）こどもの国サッカー大会

神奈川県横浜・川崎・相模原・厚木・大和及び東京都町田の近隣6市のサッカー協会と連携し、朝日新聞社、モルテンの支援を受け、11月の2日間、小学生男子と女子それぞれ優勝を競う。令和4年度で第41回を迎える恒例行事である。

（4）神奈川県児童福祉施設駅伝大会・同卒業生マラソン大会

資生堂社会福祉事業財団の助成を得て、神奈川県内の児童福祉施設の児童が参加し施設対抗で開催する駅伝大会。また、神奈川県内の児童福祉施設の児童が卒業または施設を巣立つことの記念（思い出）として、卒業生マラソン大会を開催する。

（5）ジャンボカルタとり大会、どんど焼き

テレビ朝日福祉文化事業団の助成を得て、正月行事として恒例となっている「ジャンボカルタとり大会」と「どんど焼き」を例年どおり

開催する。

7. 地域との連携強化

(1) 地域との交流の推進

- ① 近隣地域との交流を推進するため、夏・冬休みの地元自治会主催の「親子の集い」行事にプール・スケートを無料開放する。
- ② 地元青葉区民デーにおける中学生以下の入園料無料を実施する。また、この2年間コロナ禍により開催されていない「青葉区民まつり」が開催される場合には、こどもの国として出店等による参加を検討する。
- ③ 地元の警察署、消防署などの公的機関や地域団体等との連携を深める。
- ④ 令和元年度から、地域の若年認知症及び障害者団体の就労支援事業として、園内のベンチ清掃を委託実施しており、引き続き当該団体との連携を図る。

(2) 地域児童への体験学習・職場体験の場の提供

地元小学校の児童にチューリップの球根植え、椿の森の散策道路整備などの体験学習や地元中学校が実施する職場体験学習の生徒の積極的な受け入れを行い、総合的学習に寄与する。

8. 広報・PR活動

- (1) こどもの国のイベント等の情報取得手段として、多くの方がホームページを活用されていることから、積極的にホームページを活用し、園内の自然やイベント等を取り上げたブログ&内容を充実する。また、旬の見どころや駐車場の混雑状況など、時節に適したスマートフォン向け情報やSNSによる情報発信に努め、検索サイト等からの来園者を増やすことを目指す。

なお、地元情報誌による紙媒体で行っていた広報をネット媒体に切り替えるなど、広報の充実を図る。

- (2) 東急や小田急などの企業との連携により、駅前や商業施設に出店し、こどもの国を知ってもらうためのPR活動を行う「出前こどもの国」の開催の増を目指す。

- (3) 団体客の利用増を図るため、幼稚園、保育園や小中高等学校をはじめ各種団体への広報の拡充について検討・実施を目指す。

9. 自然環境及び施設・設備

(1) 自然環境整備及びそれに付随した事業の実施

豊かな自然を維持するため、樹木の剪定、伐採を計画的に進める。

なお、3年ほど前から、園内において「ナラ枯れ」の被害が発生しており、倒木による来園者への被害を防ぐため、散策道路沿いを優先的に倒木の危険性のある樹木から伐採を行っている。令和4年度においても、必要な伐採を行い、来園者の安全確保を図る。

(2) 施設・設備の管理

国庫補助により、排水機能が低下した「総合グラウンド」の改修及び老朽化に伴う「電気設備」、「放送設備」の更新等を予定。併せて、必要な施設・設備の維持、充実を着実に進める。

また、障害がある方にも利用しやすいように、施設の整備、改善についての検討を進める。